

『名古屋市の財政』と3大都市

名古屋と大阪を比較して、名古屋のまちづくりと都市魅力について話す機会があり、久しぶりに『名古屋市の財政』（令和3年版、2021年11月）を手にとった。「都市の特色」として、写真のように人口密度や昼夜間人口比率の比較が掲載されている。

この図からも名古屋と大阪、そして横浜の3大都市の特徴が読みとれる。

人口密度は大阪 12226 人、名古屋 7147 人と大きな開きがある。大阪は狭い都市空間に人が密集している感じだ。最近では都心部にタワーマンションが林立し、「都心居住」も進んでいる。

名古屋は低密分散型の都市構造であり、とくに周辺区の人口密度が低いことに特色がある。長年にわたり千種区に住んでいたが、緑豊かな東山公園や平和公園などの自然に親しむことができた。大阪に移り淀川区に住んでいるが、残念ながら緑の景観を味わうことが少なくなった。神崎川や淀川など川と触れ合う機会は増えたが、自然のなかを散策する機会が減り、どうも心身に変調を来しているようだ。

昼夜間人口比率も3大都市で大きな違いがみられる。大阪が131.7と昼間流入人口がかなり高くなっている。周辺の衛星都市からの通勤・通学者によるものだ。名古屋は112.8と大阪よりは低いが、周辺市からの流入が多い。それに対して、横浜は91.7と100%を下回っており、東京への通勤者が多いことを示している。

3都市が属する圏域（名古屋圏、東京圏、大阪圏）の状況からも、都市の性格の違いが読みとれる。とくに3都市がそれぞれの圏域に占める割合は、名古屋と大阪は総じて高い割合だが、巨大都市東京の影響により、横浜の割合は相対的に低い。名古屋と大阪は、圏域の中核都市としての位置を占めている。

『名古屋市の財政』では、このほか主な財政指標の比較なども掲載され、大都市財政を比較するうえで便利である。この冊子は黄色で製本されているので、「黄本」と呼んで、昔から活用してきた。大阪市にも『大阪市の財政』という青色の冊子が発行され、大学院生の頃から財政局で入手して活用してきた。残念ながら、発行されなくなった。

大阪では印刷された冊子はきわめて少なくなり、ネットから調達するものが主流だ。これで済む場合もあるが、やはり紙の資料は役立つことが多い。大阪で都市研究をするときに困るのが、資料が整理されていなく、入手できにくいことだ。名古屋にいた頃は、名古屋都市センターをよく利用した。豊富な資料によって調査研究の意欲がそそられ、センターからは名古屋の街並みを一望できる。また訪ねてみよう。

(2022年10月10日)

